



一般質問の会議録全文は  
町のホームページから検索できます

## 町政に関する

### 一般質問の主題

#### 増田 秀雄

- 少子化に伴う松伏町立小・中学校の将来像と統廃合の考え方について
- 流域治水の一環としての「田んぼダム」の導入について

#### 村上 真由美

- 松伏町における「電話のバリアフリー化」と手話リンク導入について
- 松伏町における「5歳児健診」の導入と就学支援の充実について

#### 川上 力

- 高齢者の入浴中の事故対策としての防水型緊急通報機器の普及について
- 災害時における燃料供給協定の実効性について
- 介護予防・日常生活支援総合事業の運用と地域介護事業所への影響について

#### 松岡 高志

- 町道における無断駐車への対応を
- 冠水が頻発する町道の改善を
- 自治会存続へ抜本的な対策を

#### 砂川 清時

- 令和8年度予算編成方針について

#### 吉田 俊一

- 学校給食費の無償化の拡大について
- 県と市町村による国民健康保険共同運営に関する議論、運営方針の見直しについて
- 町の農業振興の充実を
- 体育館へのエアコン設置について

#### 平野 千穂

- きめ細かな子育て支援を
- 交通不便地域、交通弱者への具体的な対策を早急に進めよ

7人の議員が町政を問う



ますだ ひでお  
**増田 秀雄**  
(未来クラブ)

### Q 小・中学校の統廃合の考え方は

### A 慎重かつ柔軟に検討していく

**問** 少子化に伴う松伏町立小・中学校の将来像と統廃合の考え方は。

**答 教育長** 現在、松伏町の小・中学校の児童・生徒数は減少傾向にあるが、直ちに学校運営に支障が生じる状況ではない。学校は、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合いながら切磋琢磨することで資質や能力を伸ばす場であることから、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。

一方で、児童生徒数のみで一律に判断せず、地域や学校の特色、保護者・地域住民、児童生徒、教職員の思いも丁寧に受け止め、慎重かつ柔軟に検討していくことが重要と認識している。

**問** 田んぼダムの導入を。

**答 環境経済課長** 田んぼダムは、田んぼの排水口に堰板や流出調整板を設置し一時的に雨水を貯留、ゆっくり排水して大雨時の急激な流出を抑え、河

川の氾濫など洪水被害の軽減につながる治水対策と認識している。

一方、連続した農地でないと十分な効果が見込めない、農家の設備の維持管理、長期間の貯留による農作物への影響などの課題もある。現在、排水ポンプ等により大雨対策を行っており、現時点で導入の検討はしていないが、研修会や先進地視察、情報交換を通じて調査研究を行っている。



小規模特認校の金杉小学校



むらかみ まゆみ  
**村上 真由美**  
(公明党)

## Q 5歳児健診の導入を検討すべき

### A 導入に向け、準備を進める

**問** 3歳4か月児健診から小学校入学までの約3年間にADHD（注意欠如・多動症）などの発達特性が顕在化するケースが少なくない。本町において、就学時健診や入学後に初めて発達の課題が把握された事例は年間どの程度あるか。

**答 教育総務課長** 令和7年度の就学時健診で、確認検査を実施した人数は44名。また、就学時健診の結果で、教育相談を開始した人数は17名。令和7年度に通常学級に入学した児童が、令和8年度当初までに特別支援学級に形態変更を行う予定児童数は5名。

**問** 伴走型支援という意味でも5歳児健診は必要だと思うが、町の考えを伺う。

**答 すこやか子育て課長** 切れ目のない支援である伴走型相談支援の更なる充実のため、5歳児健診の導入に向け、準備を進めていく。

**問** 令和3年に電話リレーサービスが公共インフラ化

されたが、既存のサービスは事前登録が必要である。登録不要で行政窓口につながる「手話リンク」の導入を検討すべきではないか。

**答 町長** 「手話リンク」を利用できれば、聴覚に困難がある方の利便性が良くなるものと考えている。

**答 いきいき福祉課長** 町ホームページのリニューアルに向けて、進めている。この機会に「手話リンク」の導入も、調査・研究していく。



5歳児健診が必要



かわかみ つとむ  
**川上 力**  
(公明党)

## Q 燃料供給協定の実効性を問う

### A 燃料供給体制の確保は非常に重要

**問** 高齢者の入浴中の事故対策に、防水型緊急通報機器の普及について伺う。

**答 町長** 町が導入している緊急時通報システム端末機設置事業は、高齢者などの一人暮らしの方が自宅で急病や体調不良になった時に、ボタンを押すことでコールセンターを通じて消防署に通報する事業ですが、生活防水程度の機能のものしか存在しないため、対応できる機器の情報に注視していく。

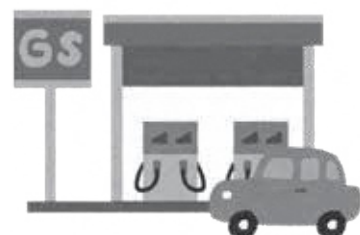
**問** 災害時における燃料供給協定の実効性を伺う。

**答 総務課長** 災害協定を締結している事業者と、平常時から関係性を構築することは、地域経済の活性化や持続可能なまちづくりの観点からも重要なものとする。必要な登録車両を決め、事業者側にも把握できるようにして、災害時のスムーズな対応に繋げるための準備及び対応については今後の検討課題とする。また一定の燃料を事業者が

確保しておくことについては、協定先や消防組合とも意見交換を行い、災害時における燃料確保に努める。

**問** 介護予防・日常生活支援総合事業の運用と地域介護事業所への影響について伺う。

**答 いきいき福祉課長** 現在、総合事業において、利用が集中した場合に利用を制限するような基準やルールは設けていない。中立性の大切さは認識しているが、国・県・近隣市の動向を注視していく。



災害時の燃料確保は大丈夫？



まつおか たかし  
**松岡 高志**

(チェンジ松伏無所属クラブ)

## Q 町道における無断駐車対応を

### A 法違反の場合は警察に依頼し解決

**問** 町道などで常態化している無断駐車の問題を、町ではどう対応して来たのか。また、解決策をどう考えてきたのか、伺う。

**答** **まちづくり整備課長** 町道の迷惑駐車に対しては通報が入ってくるケースが多くあります。町は道路管理者として通行の安全を確保するため、速やかに現地を確認し、一般交通に支障がある場合は現地調査及び指導を行います。大体のケースで速やかな解消に繋がっている状況ですが指導した際には解消するものの、しばらくすると再発するようなケースもあります。このように車両の保管場所として町道に停めているような場合は「自動車の保管場所の確保等に関する法律」に違反している可能性があるため、警察による取り締まりを依頼し解決に繋がっています。

**問** 自治会の存続について、町長の考える将来的な方向性や地域住民との協働のあり方を伺う。

**答** **町長** 自治会は、町の最も身近な自治の単位であり、地縁によるつながりを持って組織する地域の大切な存在だと考えます。これからは、会員などの負担を減らしながら、多世代が参加しやすい仕組みづくりへと進化させていく必要があります。町としても、自治会を「お願いする相手」ではなく、「共に地域を創るパートナー」として支援してまいりたいと考えます。



町道の路肩に駐車中の車



すながわ きよとき  
**砂川 清時**

(自民クラブ)

## Q 令和8年度予算編成方針を問う

### A 子育て全力応援のまち実現予算

**問** 町長就任後最初の予算編成の方向性を問う。

**答** **町長** 所信表明で掲げた「子育て全力応援のまち実現」に向け、各課長に対し予算要求を指示。

**問** 未来を担う子供たちが、健やかに育ち、生きる力を育むまちづくりを問う。

**答** **すこやか子育て課長** 母子保健の環境整備として、保健センター移転建て替え事業がある。新規事業として、母子健康手帳アプリの導入、乳児等通園支援事業、子育て世帯訪問支援事業を実施する予定。更に、公設学童クラブの保育終了時刻の30分延長、学校休業日の保育開始時刻の30分前倒し。他に、産婦健康診査への助成回数を1回から2回に増やす。

**答** **教育総務課長** 学校の体育館のエアコン設置を進めている。また、小学校低学年の不登校児童の増加傾向を受け、小学校にスペシャルサポートルームを設置。町で心理士を採用し、発達に困り感の

ある児童・生徒に対し発達に関する検査・相談業務を実施。

**問** 子供たちや保護者の皆さんが集まりやすい場の必要性を問う。

**答** **町長** 町民の皆様が世代を超えて集まれる場を整備し、そこから多世代へと交流を広げていくことは、大変意義のあるものと認識している。



建設が進む松伏町新保健センター



よしだ しゅんいち  
**吉田 俊一**  
(日本共産党)

## Q 学校給食費の完全無償化について

### A 中学校も実現できるように検討する

**問** 臨時交付金を活用して中学校給食費4回分、1学期分を無償化する予算が2月臨時議会で可決している。国は、小学校の給食費無償化を地方財政対策で進めることになっている。給食費無償化の拡大を、町はどのように準備しているのか。

**答 企画財政課長** 町長からの指示のもと、令和8年度当初予算に、小学校の学校給食費の無償化に必要な予算を計上した。

**問** 国の補助基準。町の持ち出しはどうか。

**答 企画財政課長** 給食費負担軽減交付金（国1/2、県1/2）が県を經由して配分される。実施校の在籍児童数掛ける基準額一月5,200円、この11か月分と示されている。令和8年度の町内の小学校の保護者に負担していただいている学校給食費は年額約5万1,000円、こちらを国の基準額の11か月で割ると、1か月約4,700円となり、国の基準額以内に収まる見込みです。給食材料の

値段も年々高騰しており、材料費の上昇が続けば、持ち出しが発生する可能性はある。

**問** 小学生の年間全額と中学生4回分と大きく前進したが、完全無償化の実現をしていただきたい。

**答 町長** 子育て全力応援のまちの施策として、財政状況や国・県の動向等を十分に見極めながら、中学校の（全額）無償化が少しでも早く実現できるように、検討を進める。

松伏町での学校給食費（年10回）の無償化の拡大

	小学校	中学校	その他*
令和6年度	1期・2期分	1期・2期分	
令和7年度	1期・2期分	1期・2期分	第3子以降無償
令和8年度	1年分	1期～4期分	第3子以降無償

\*小・中学校に子が3人以上在籍している場合、第3子以降は無償



ひらの ちほ  
**平野 千穂**  
(日本共産党)

## Q 交通不便地や交通弱者への施策を

### A 町長：大きな期待を強く認識

**問** 交通不便地域から、デマンド交通の導入を求める声が大変多い。町の認識と今後の対応を問う。

**答 企画財政課長** 交通空白地域を含め町内の移動手段を効率的に確保するため、地域の多様な輸送資源の活用について関係者と協議を重ね持続可能な地域公共交通の実現を目指していきたい。デマンド交通については、先進自治体の実施方法や導入の条件等の聞き取りや情報収集を行っている。

**問** バスが1日1本でも通っていれば交通空白地域とならず、バス停から300mまでの間も交通空白地域に入らない。地域公共交通計画のアンケートでは300m歩けない人が3割程いた。交通空白地域だけでなく交通不便地域や交通弱者に対する施策を、今後、具体的に進めていただきたい。令和5年末に公共交通協議会が立ち上がり、6年度末に計画ができ、町内全域の方々から町の交通状況が改善するのではないかと大きな希望、

期待があったが、交通不便が改善されている実感がないという人が多い。今後の公共交通政策への考えを町長に問う。

**答 町長** 町民が公共交通全体に大きな期待を寄せていることは強く認識している。町内の各地域を移動できる交通政策について、日常生活を支える公共交通が将来にわたって持続できるように、地域公共交通計画に基づき引き続き調査研究していく。



県内 駅のない町で松伏町だけがデマンドもコミュバスもない